

お知らせします

町の財政状況

(平成21年度決算)

決算の概況（一般会計）

平成21年度一般会計決算規模は、歳入が59億9,341万4千円（前年度比13.5%増）、歳出が56億6,827万3千円（前年度比11.4%増）となりました。

歳入歳出差引額は3億2,514万1千円で、翌年度に繰り越すべき財源1億4,279万4千円を差し引いた実質収支額は1億8,234万7千円の黒字となりました。

歳入の主な内訳は、町税が個人町民税、法人町民税が景気後退により、固定資産税も評価替えによりそれぞれ減収となり3.2%の減となりました。町税に次ぐ大きな財源となっている地方交付税は、町民税の減少や地域雇用創出推進費の創設等により10.1%の増となりました。

国庫支出金は定額給付金や学校耐震化に伴う公立学校施設整備費補助金等により147.2%増、県支出金はほぼ昨年度並みの0.2%減、町債は学校耐震化事業や

臨時財政対策債により97.4%増となりました。

一方、歳出の主な内訳を目的別に見ると、総務費が定額給付金給付事業等により12.9%増となりました。民生費は自立支援関係給付費および後期高齢者医療特別会計等への繰出金等の増により2.3%の増。衛生費は乳幼児医療費の制度拡充や保健センターにエレベーターを設置したことなどにより11.0%増となりました。土木費は酒々井インターチェンジアクセス道路関連事業やJR酒々井駅自由通路エレベーター設置事業等により48.9%増。教育費は酒々井小学校屋内運動場改築事業等により36.7%増となりました。

問い合わせ 財政課財政班 ☎(内)2 3 4

※水道事業会計は、上下水道課水道事業班 ☎(4 9 6) 7 7 2 5

健全化判断比率と資金不足比率について

平成19年に「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」が公布され、一般会計などの普通会計中心であった財政分析が特別会計、公営企業および一部事務組合などを含んで財政分析を行い、財政の健全化あるいは公営企業の経営の健全化に努めるようになりました。

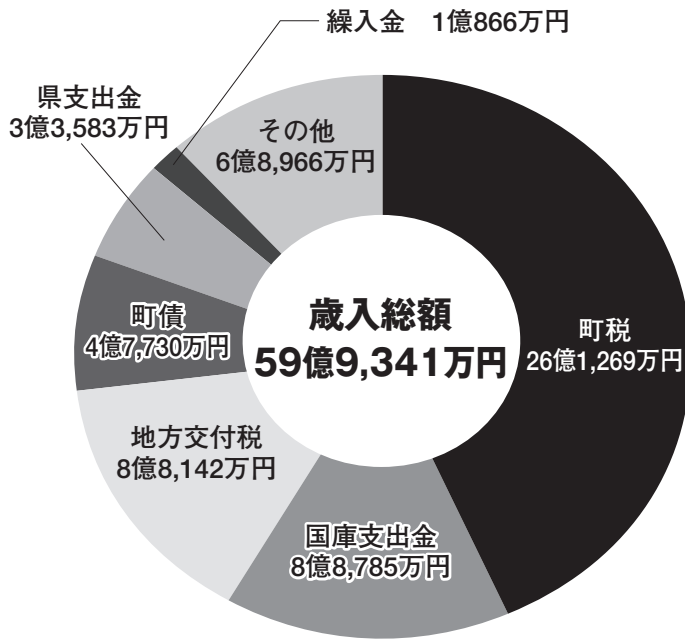
平成21年度の指標は下記のとおりであり、早期健全化基準を上回り、健全状態であるといえます。

健全化判断比率 (%)				資金不足比率 ⑤ (%)		
区 分	健全化判断比率	早期健全化基準	財政再生基準	区 分	町の資金不足比率	早期健全化基準
実質赤字比率 ①	—※	15.0	20.0	下水道事業	—※	20.0
連結実質赤字比率②	—※	20.0	40.0	水道事業	—※	20.0
実質公債費比率 ③	7.6	25.0	35.0			
将来負担比率 ④	23.1	350.0				

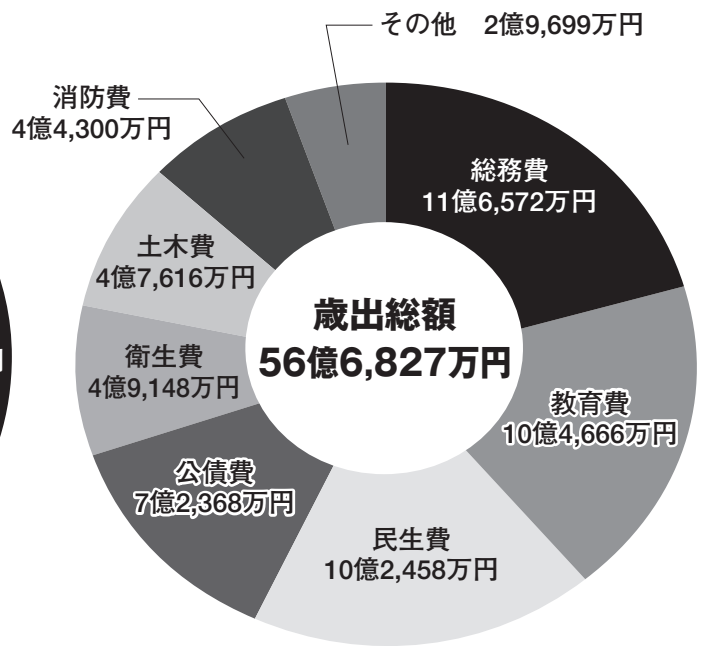
※収支が黒字のため、赤字比率が算定されません。

- ①実質赤字比率 普通会計を対象とした実質赤字を比率化したもの。
- ②連結実質赤字比率 全会計を対象とした実質赤字を比率化したもの。
- ③実質公債費比率 町が負担する公債費（公営企業や一部事務組合を含む）を比率化したもの。
- ④将来負担比率 町が将来負担する実質的な負債（借入金残高や負債等）を比率化したもの。
- ⑤資金不足比率 公営企業の資金不足を比率化したもの。

一般会計【歳入】



一般会計【歳出】



平成21年度 主な事業

【保健福祉】

- ・保健センターエレベーター設置事業 3,308万円
- ・乳幼児医療事業 2,975万円
- ・予防接種事業 2,528万円

【教育文化】

- ・小中学校耐震化事業 3億406万円
- ・生涯学習推進事業 493万円

【生活環境】

- ・消防・防災事業 2,600万円

【都市基盤】

- ・地域活性化事業 9,830万円
- ・JR酒々井駅自由通路東口エレベーター設置事業 4,376万円

【産業経済】

- ・ちびっこ天国運営事業 1,297万円

【地域社会と行財政】

- ・住民活動支援拠点運営事業 394万円
- ・町制施行120周年記念事業 191万円

特別会計

区分	歳入	歳出
国民健康保険	21億2,154万円	20億1,200万円
下水道事業	3億5,224万円	3億3,329万円
老人保健	938万円	740万円
介護保険	8億7,066万円	7億9,786万円
後期高齢者医療	1億2,246万円	1億2,122万円

水道事業会計

収益的収入	4億6,967万円 4億4,751万円(税抜額)	収益的支出	3億7,107万円 3億5,171万円(税抜額)
資本的収入	293万円	資本的支出	1億6,247万円

※収益的収支の差額(税抜)が純利益です。

※資本的支出額に対して資本的収入額が不足する額は内部留保資金等で補てんされます。